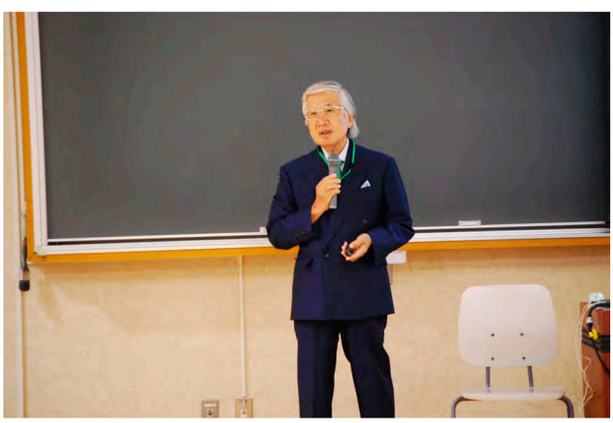
「医療経済学会 第13回 研究大会」開催報告

2018 年 9 月 1 日（土）に東京大学 本郷キャンパスに於いて、岩本 康志 氏（国立国会図書館 専門調査員）を研究大会長として「医療経済学会第 13 回 研究大会」が開催されました。　同大会には141 名もの皆さまにご参集を頂き、盛会裏に終了を致しました。

一般演題は 4 会場に分かれ、経済評価、将来設計・財政、介護、情報、選考、リスク、医療供給、医療需要など多岐に渡る 22 演題の発表がなされました。若手発表者も多く、若手からベテランまでの幅広い年齢での活発な議論が行われました。また、「第 10 回若手研究者育成のためのセミナー」も同時に開催され、若手研究者（大学院生）への実践的なアドバイスを提供する機会も設けられました。

「介護保険法制定から 20 周年を振り返り、20 年後を構想する」と題されたシンポジウムでは、介護保険制度の沿革から導入効果、進行中の改革や展望に関する基調講演を中村 秀一 氏（国際医療福祉大学大学院 教授・副大学院長）より、保険財政とマンパワーの視点からの介護保険制度の持続可能性に関する基調講演を遠藤 久夫 氏（国立社会保障・人口問題研究所 所長）より、ヘルスサービスリサーチから見た介護保険制度の評価・医療と介護の連携のあり方に関する基調講演を田宮 菜奈子 氏（筑波大学 教授）より行って頂きました。基調講演の後は、田中 滋 氏（埼玉県立大学 理事長・慶應義塾大学 名誉教授）をモデレーターに、基調講演演者をパネリストとしたパネルディスカッションが行われ、介護保険財政の維持や介護人材不足への対応などの内容で意見が交わされました。



お昼に開催された総会の中では、2017 年度 学会論文賞の表彰も行われました。 受賞論文として、 上野 綾子 氏（衆議院調査局 調査員）と濱秋 純哉 氏（法政大学 准教授）の「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」が選考され、医療経済学会会長の今中 雄一 氏（京都大学大学院 教授）より表彰状が、医療経済研究機構 所長の西村 周三 より副賞が授与されました。

最後になりますが、ご参加を頂き、活発にご討議を頂き、盛会に導いて下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。第 14 回 研究大会は、2019 年 9 月 7 日（予定）に国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパスに於いて開催予定です。 どうぞ、 再び多くの皆様のご参集を賜りますことを、お願い申し上げます。

（医療経済学会　事務局）